

2026 年 6 月 21 日発行

大町山岳博物館友の会 第 206 号

ゆきつばき通信



行事のご案内（友の会主催事業）

善光寺街道を歩いてみようVI～北国西街道編（第4回）～

これまで令和5年度から令和7年度まで3年かけて、北国西往還・通称善光寺街道を松本宿から訪ねてまいりましたが、本年度は北国西街道見学の最終年となります善光寺宿及び善光寺の見学会を行います。



一度は参拝に訪れたことのある善光寺だとは思いますが、街道周辺に残る古い町並みや善光寺の歴史について学ぶ、現地でのまたとない機会になると思いますので、ぜひご参加ください。

《期 日》 9月13日（日）※小雨決行 大雨中止（翌年へ順延）

順延の場合は前日に参加者に電話連絡します。

《集合解散》 午前9時00分 長野駅善光寺口 長野駅前交番前 集合

友の会の旗を持って担当が待っています。

午後3時ごろ 善光寺にて解散

《行 程》 長野駅善光寺口 9:00 ～ 9:30 刈萱山西光寺（絵解きを見学） 10:40 ～
～ 北国街道・善光寺参道の町並みを見学～～ 11:00 ぽていお大門周辺（各自昼食）～ 12:00 善光寺〔仁王門、宿坊、世尊院釈迦堂、山門、
経堂、本殿（お戒壇巡り）～本堂周辺の供養塔など〕 現地解散
その後は各自、買い物などをしながら駅に向かってください。

《対 象》 友の会会員（小学3年生以上）徒歩で3時間以上歩ける体力のある方

《募集人員》 会員 20名 （定員になり次第締め切り）

《解 説》 清水隆寿さん（元大町山岳博物館学芸員）

《参 加 費》 2,100円（本堂内陣（お戒壇巡り・山門拝観・経堂拝観・刈萱山西光寺絵解き）

《持ち物》 水筒（飲み物）、雨具、筆記用具、御朱印帳など各自必要とするもの

《申し込み》 8月25日（火）から9月8日（火）まで

電話・FAX または直接、友の会事務局へ

（Tel/Fax 0261-23-6334） 連絡先もお知らせください。

《当日連絡》 090-1542-6609（川崎 晃 / 担当役員）

《その他》 御朱印や昼食代、交通費や駐車場代などは各自払いとなります。

- ・御朱印は解散後にお願いします。
- ・基本的に長野駅までの行き方は参加者にお任せしますが、電車の場合、西条駅・坂北駅には月極駐車場の中に何台分かの無料スペースがあります。明科駅には有料駐車場が何台分かあります（参考までに）。

博物館よりご案内・・・

特別展 「ボタニカル・フォトアートで見る雑草の機能美」

■期間 7月4日（土）～9月13日（日）

■会場 特別展示室

いがり まさし さんのボタニカル・フォトアートを扱った特別展が開催されます。詳しくは前回お送りした「山と博物館」春号と、今回同封の同夏号とチラシをご覧ください。

企画展「ライチョウ野生復帰大作戦 ―令和6・7年度の取り組み―」

◆期間 9月19日（土）～12月20日（日）

◆会場 特別展示室

◆後援 環境省信越自然環境事務所、日本動物園水族館協会

詳しくは同封の「山と博物館」夏号をご覧ください。

◆8月8日（土） 長野県環境保全研究所 自然ふれあい講座 主に小学生
「みんなで温暖化ウォッチ ～セミのぬけがらを探せ！in 大町～」

◆9月27日（日） 長野県山岳総合センター 野外活動講座（山博と同センターとの連携事業）
「石ハカセをめざそう！」

問合せ、申し込みは、いずれも前回お送りした「山と博物館」春号最終ページ等をご確認ください。

大町山岳博物館は、7月、8月は無休です。9月7日（月）は臨時開館いたします。

報 告 『博物ハイキング - 木崎湖編』

《期 日》5月10日（日） 9時00分～17時00分

《場 所》木崎湖一周＋猿ヶ城風穴下

《天 候》快晴 《参加者》19名

博物ハイキングシリーズは、特に講師を設定せずみんなで様々なものを見て歩くという企画である。これ以上ない晴天に恵まれて、役員事務局含めて19名の参加でにぎやかに行われた。

当初、足を延ばして猿ヶ城風穴まで計画したが、気の立ったツキノワグマの時期であり下見で新鮮な痕跡が見つかったこと、落石が多くもしかしたら4月の地震で浮石が不安定になっていることも想定し、団体行動として、今回は割愛した（宮沢会長の提供で、参加者資料に少し詳しく解説を入れたので見ていただきたい）。その分、あちらこちらでゆっくりしすぎ、終了が1時間ほど遅くなってしまい、担当の不手際をお詫びする。



コースは木崎夏期大学を始終点に反時計回りに一周した。10年前に博物館で実施した「山の歴史ウォーキング」シリーズの木崎湖編で歩いたコースで（資料も改訂引用し、地形地質などを加筆した）、植物観察を中心に海ノ口北村の風穴の上り口付近を追加した。

10年前にあった稲尾の薬師堂と海ノ口の笠松は無くなっている。老朽化で管理できなくなったり松くい虫の被害という。西海の口のヒカリゴケも、ほとんど見られなかったのは、季節の違いか？

今回のルートの直近で3週間前に大きな地震が起こった。石塔の被害なども確認してもらった。東岸の湖岸歩道の護岸（フトン簀）が大きく被害を受けているのも見てもらった。

民俗、歴史、植物、野鳥、地形に地質、いろいろな面で木崎湖と木崎湖周辺に学んだ。覚えきれものではないが、これを機会にフィールドに興味を持ってもらえればと思う。また、山の歴史ウォーキングを含め良いフィールドガイドがあるので、今後も活用されたい。

※当日、資料が想定以上に余っていました。お渡し忘れた方がいらっしゃいましたらお知らせください。

（担当役員 丸山卓哉記）

【感想】

今回は、「印象に残ったもの、こと」、「今日持ち帰る「疑問」「未解決事案」～帰って調べること」と「感想」を各自レポートにしてもらった。その中からいくつか紹介する。

何故か神秘的に感じていた仁科三湖、木崎湖を一周する事でその神秘さが分かるのでは、と参加させて頂きました。

この地域は糸静構造線が通り、西山の仁科山地は大陸の一部であった時代の古い地層がある、もうそこから神秘さが伝わります。

4月の大地震は長野県北部との報道があったが、この湖の東側の大峰山地、権現山付近が震源地だったとの事。この大地の下ではどんな自然の営みが起こっているのか、更に興味を惹かれました。

森城趾に在った仁科神社の祭神、仁科盛遠とはどんな人だったのか。大町と言えば仁科氏。知らない事ばかり家に戻ってからちょっと歴史を調べてみるきっかけにもなりました。

見え隠れする鹿島槍ヶ岳と爺ヶ岳。地学、歴史、植物、木崎湖一周で沢山の話しにときめいた一日でした。ありがとうございます。・・・😊さんより



〈印象に残ったもの、こと〉

木崎湖を徒歩で巡ることは初体験、沢山のことが印象に残った。

- ・稲尾集落の下諏訪神社、常夜灯、集落の佇まい等々。
- ・海ノ口公民館周辺の石仏、安倍渡・灯籠伝説等。
- ・農具川周辺道路脇に散乱していたカワシンジュガイの貝殻
- ・森城址の境内に入ったのは初めてのことで、「仁科の里」の歴史を感じた。
- ・4月18日の地震の痕跡を目の当たりにしたこと。

〈今日持ち帰る「疑問」「未解決事案」～帰って調べること～〉

- ・この時期に見られる白い花を付けた植物を中心に観察した。ハコベの白い花がいくつもあり???数日後、現地に出かけて再確認した(標本にした)。
- ・風穴は、今回も出会うこと叶わず。発掘・調査に尽力された故倉科元館長から誘われ、2度目は烏帽子の



会例会総会山行、いずれも日程が取れず、今度こそ、風穴にお目にかかされると楽しみに、新鮮なクマの糞を見つけたがために…「未解決事案」の一つ。

〈感想〉

- ・資料が充実していた。行事後も活用している。
- ・上諏訪神社前に役員の車があり、トイレ利用希望者等に便宜が図られた。
- ・風穴行きを中止にして、関学芸員・会員によるガイドを聞くことが出来、充実感のある博物ハイキングであった。

◎役員の皆さん、関学芸員お世話になりました。木崎湖が一層身近な存在になりました。

・・・ 🍀 さんより

〈印象に残ったもの、こと〉

- ・小熊山の尾根の窪んだところに爺ヶ岳の山頂が見え隠れして最後に鹿島槍ヶ岳が見えた。
- ・常夜灯の扉を開けたら三日月がくり抜いてあって、昔の人たちのロマンを感じた。
- ・上諏訪神社のヒカリゴケを見ることができた。
- ・湖の布団かごが亀裂ではがれたのがずっと続いていて地震の影響がすごいなと思った。海口庵の墓石が地震で倒れたり、転がったりしているのを見て驚いた。
- ・カワシンジュガイの小さめの貝殻がカラスに食べられたのか道端に多数落ちていたのを見て、結構たくさんいるのかなと思った。

〈未解決事案を帰ってから調べた〉

○ウスバアゲハが多数見られたので興味を持って調べた

かつてウスバシロチョウと呼ばれたが、現在はウスバアゲハと呼ぶようになったこのチョウには、鱗粉がほとんどない（鱗粉の役割とは色、模様により警戒色、擬態という役割がある。また防水、体温調節などがある）。つまりウスバアゲハは高山・冷涼地帯にいるので体温調節不要、半透明で向こうの景色が透けて見えるので



擬態する必要がない。メス、オスの見分け方だが、メスのほうが腹部に毛が少なく、交尾後は受胎嚢を付ける。幼虫の食草はムラサキケマン、ヤマエンゴサクなどのケシ科だが、これらの植物はアルカロイドを含む有毒植物。幼虫はこの植物を選んで食べ、鳥などの捕食者から身を守る科学的防御を獲得している。なお、成虫は上部が枯れてしまった後にこれらケシ科植物が生えてくるであろう近辺の枯草に卵を産むそうだ。・・・ 🍎 さんより

烏帽子の会

活動報告

《 坂北村 修那羅山安宮神社石仏群とみやこわすれの花を訪ねる 》

《月日》5月30日（土） 《天気》晴れ 《参加者》20名

《コースタイム》

池田町役場 9:00→四人峠→やまなみ荘→国道19号→差切峡→麻績村→まんだらの里→修那羅山
安宮神社 10:30→石仏見学 12:00→昼食・総会 13:30→麻績→大岡→芦ノ尻道祖神 14:30→国道19
号→山清路→やまなみ荘→池田町役場 15:30

《状況》

筑北村教育委員会の一ノ瀬泰明さんの案内で修那羅山石仏を巡った。安宮神社にお参りをし、小さな鳥居をかがんで入る。808基の石神仏、石造物が祭られている。その中から“しよならさん”というガイドマップに記載されてる27の石神仏を一ノ瀬さんに紹介してもらいながら歩いた。十一面観音はブナの木肌にすっぽり抱きかかえられて、可愛い顔をのぞかせていた。昼食を食べて総会をしたあと、大岡の展望台経由で蘆ノ尻道祖神を参拝した。



《感想》

修那羅山の石仏に会いに行く

仙波美代子

歩くのは1時間ほどだからぜひ一緒に行きましょうとお誘いや、自分に発破をかける意味で年頭に信毎に投稿した「山への復帰の決意」をLINEで拡散してくれる友ありで、もう参加するしかないという状況になりました。1年8ヶ月ぶりです。元気だったころ、数え切れないほど登



りに登った生坂、筑北、青木辺りの山々はもう夏のような深い緑に包まれていました。

歩き始めて間もなく、なにかおかしい。5cmくらい宙に浮いたような地に足が着いていない感覚がありました。道は整備されていて危険なところもないし、松葉のクッションで易しい道なのに、何なのだろうこの感触は……。家の近くでウォーキングをしても、もっとしっかり大地を踏みしめている実感があつたのにと頭の中を？マークがぐるぐる回って、足元がとても不安定でした。ちょっとした木の根を跨ぐのも肩を貸してもらったり、「ばばさまお手をど



うぞ」と手を差し伸べてもらったりと随分助けていただきました。

ガイドの一ノ瀬さんのお声はとても慎まじやかで、後ろの方の方は聞こえなかったそうで、私も補聴器は落とすといけないのでつけておらず、近づいた時しか聞くことができませんでした。その分を補う資料が沢山ありました。((´▽`))。

足元と資料と石仏をほぼ同時に観るのは不可能な私は、修那羅山の目玉みたいな大樹の洞の「ブナ観音」は、とてもはしごを上がれないとハナから諦めていましたが、ここでも手を取り、お尻上げと人生で二度とないようなサポートで、しっかりと拝むことができました。優しいお顔の「十一面観音」が心に焼き付きました。



私は巨岩が大好きで、様々な生き物に見える大きな岩を写真に撮る余裕も出てきた終盤に、足の違和感の正体が分ってきました。長く履くことのなかった登山靴が犯人だと思うのです。ここならハイキングシューズでも良かったかとも思いながら、かくなる上は、以前に来た時、感銘を受けた句があり、今回はそれを探す余裕はなかったので、もう一度来てみようかという小さな夢ができました。

なにとはともあれ、無事に転ばず行って来られたことを嬉しく思います。そして、遅れがちな私を辛抱強く待って下さった皆さんに心よりの感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【総会報告】

5月30日、修那羅山安宮神社で総会を行いました。会計報告のあと、今年の山行と担当を決めました。

月	場所
7月	小谷村 眺望の郷
9月	生坂村 京ヶ倉
11月	松本市 戸谷峰～烏帽子岩
1月	未定
3月	筑北村 四阿屋山
5月	大町市 権現山



ボランティアサークル

5月5日の「2026 さんばくフェス」ではクイズラリーの受付を行い、前後の日を含めてライチョウガイドや館内案内などを行った。この間、延べ16名の会員がボランティアに参加した。ボランティアサークルの活動を始めて17年になるが、最高の参加者となった。

【感想、気が付いたことなど】

○〈ライチョウ舎〉

- ・遠方からくる方、ライチョウ好きの方が本当に多いので、ライチョウ募金箱（そのの使い道をきちんと書いておく。餌代など）とか、ライチョウノートを置いて記入してもらうのはどうか。それをホームページに載せたりすれば宣伝になるかもしれない。
- ・飼育舎の掃除の時間をどこかに書いて貼っておいてもらえると嬉しい。ライチョウが何時頃から見られるかの目安になるので。あと、掃除を珍しいものとして見ている人もいたのでいろんな意味で楽しめる。
- ・掃除が終わった飼育員さんが“掃除が終わりました”、とお客さんに頭を下げた感じに好感が持てた。

○〈付属園〉

- ・子供たちが、興味深く飼育舎をのぞく姿が印象的だった。ライチョウだけでなく、飼育されている動物に関する情報を事前に周知しておくことも大切と実感した。
- ・カモシカ“ナグリ”を見られる場所の案内図があるといいと思う。ナグリが金網の外の葉を食べようと金網に足をかけて懸命に背伸びしている姿が可愛かったが、生の葉が欲しかったのか？
- ・“高山植物園”という大きな看板があるといいと思う。今、見られる植物の一覧表をホワイトボードなどに書ければいいなと思う。
- ・動物は少なくなったが、植物が充実してきた。ボランティアが複数人だったため、主に、スバルライチョウ前で全体を含めて案内をした。

○〈3階〉

- ・雪形の確認、設置されている望遠鏡から山々を眺め感動している親子が多く印象的だった。望遠鏡前に置いてある踏み台が動いてしまい、事前に声かけが必要と反省した。
- ・エレベータを降りた来館者は、天気も良かったこともあり、ほとんどが双眼鏡付近の窓に向かい、ここで、山を同定しようとし、写真を撮り始める。その後、左に移動して、山名案内のパネルに気づく。さらにモニターの音でビデオを見て、2階に降りてしまう。このあたりをサポートし、来館者が展示にスムーズに気づいてもらえるようにするのもボランティアの役割だと思う。今回、双眼鏡付近に山と雪形の案内を置いて、役に立ったようだ。
- ・山の岩石の入っている引き出しがあるが、動線としては通り過ぎた後の案内板となっている。





床の立体地図は日焼けで文字が分かりにくい。また、白馬岳や上高地が載っておらず、来館者も残念がる。市内学校も統合され名称も変わっており、更新されたい。

- ・3階は真正面の窓から山を見がちだが、左奥まで行くと白馬岳の北の方まで見えることを教えた方が親切だと思う
- ・東の小窓からは動物は見えないので、含めて付属園の案内をする。

○〈2階〉

- ・ベランダの植物が中途半端な状態。名札などつけて活用してはと思う。

○〈その他〉

- ・スパーバルライチョウの立て札を見てたお客さんから、“山博”って何？と聞かれた。大町山岳博物館の事ですよと言ったら、どこかの山の博覧会の事かと思った、と言われた。私たちは“山博”は大町山岳博物館と当然お客さんも知っていると思っているが、一般には知られていないのかも。
- ・グリーンの同じユニフォームを着ていرونなどところでお客様をお迎えする様子はとても良かった。一般のお客様にもこの博物館は活気があるなと思ってもらえたらうれしい。
- ・今回のボランティアは基本的に10時からであったが、開館直後の来館者も多く、可能なら開館時間から活動を開始したい。
- ・4月の地震が観光に影響があったかはよくわからないが、何人かに地震の場所や状況を聞かれた。
- ・来館者とはケースバイケースの対応なので、なかなか気を使って疲れるが、少しの時間でもコミュニケーションがあって、お互い何か残るものがあればよいと思っている。

もう一つの大きな作業は、ライチョウの餌のためのナラの葉の摘み取りだった。若葉のこの時期、8kgを目標に、5月17日と31日に作業を行い、6kg余りを採取した。今年は、付属園の林道に生えている若木から採取したが、山のように枝を用意しても、葉っぱにするとなかなか軽い。不足は職員さんの作業になってしまう。採取した葉は消毒、乾燥され、冷凍保存される。ライチョウが餌のペレットをつつく姿が、今後ますますかわいく思えるであろう。



少し先の話ですが、ボランティアグループでは今年は11月7日(土)に茅野市の八ヶ岳総合博物館と尖石縄文考古館で研修の予定です。八ヶ岳総合博物館では市民研究員のシダ・植物メンバーと交流し、これからの山博での活動を考えていきたいと思っています。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

博物館訪問記

神流町恐竜センター

丸山卓哉

群馬県^{かんね}神流町は、長野県からは佐久穂町から“酷道”299号線を十石峠を超えて1時間ほどのところの、神流川流域の町である。神流町恐竜センターは、町の最も長野県寄りのところ、旧中里村にあり、1987年に中里村恐竜センターとして発足している。合併前は非常に小さな村なのになぜこのような博物館ができたのか、それは1953年に発見された漣痕(さざなみの化石)に恐竜の足跡が確認された(1985年)からだ。

神流川流域一帯は、付加体のジュラ紀の秩父帯に挟まれる白亜紀の地層が分布している。日本列島はまだ大陸の縁にあったときで、海岸や潟を恐竜たちが歩いていた。

館はひと時代前の感じがする。一番は、恐竜の模型がからくり人形のように動く“ライブシアター”(写真)。マスコットキャラクターが恐竜の時代のモンゴルにタイムトラベルして、博士の人形がいろいろ解説をしてくれる。今ならCGですべてを済ませられるものだが、メンテナンスも大変だろうがしっかり動いて楽しませてくれる、必見もの。

高崎からは1時間余りの山中、小さな村の小さな博物館は大きな夢を育ててくれている。

2026年5月訪問



ゆきつばき通信編集室より

通信を「山と博物館」に同封して郵送料を節約すべく、前号から2か月での発行となりました。少し先になりますが、9月の善光寺街道シリーズ終点のご案内です。

再三のお願いになりますが、友の会のこれからの対する提言、参加した行事の感想など、原稿をお寄せいただければと思います。

(編集担当:丸山卓哉 投稿先:takuya-m@juno.ocn.ne.jp)



ゆきつばき通信 第206号

発行/大町山岳博物館友の会 2026年6月21日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ <https://www.omachi-sanpaku.com>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

